

技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部春季号 < 第79号 > (平成21年4月15日発行)

巻頭言

魅力ある技術士会へ向けて

九州支部副支部長 **大橋 義美**
(建設・総合技術監理・長崎)



魅力ある技術士会であるためには、夫々の技術士が、先ず「会に魅力を感じ自発的に加入していること」、そして「会の活動に魅力を感じ自己の能力の発揮や資質の向上を目指す思いで参加していること」、また「会に所属することによって、自己の知識等の習得や社会的地位の向上を得ることを目的としていること」等が挙げられます。

技術士会は、このような同じ目標・目的を持ち、会に所属することに魅力を感じ、会に強い愛着をもっている多くの会員で構成され活動して行くことが理想と思います。そこで、技術士会を、魅力と活力のあるものにするためには、次のような点の充実が必要と考えます。

- ① 会員の増強です。本部でも会員拡大について検討されていますが、登録技術士の約25%の入会率では少ないと考えます。技術士資格取得に対する支援と入会への勧誘が必要です。会員増により社会的な地位の向上、財政的基盤の確立等が図られます。
- ② 九州各地区の活性化です。「公益法人化」へ向けた検討がなされていますが認可となれば、各地区技術士会の活動と合わせ地域との交流の活発化が重要となります。
- ③ 研修会、セミナー、総会等への参加です。支部や各地区において行われる各種行事への参加者が固定化されており、且つ、若手技術士の参加が少なく感じます。未参加の会員には業務が多忙、学会等の研修会に参加などの理由があると考えますが、先ずは年に1回、それ以上の参加をお願いします。
- ④ 若手技術士に対する期待です。青年技術士が地域・部会の枠を超え積極的に各種活動に参加して貰い、お互い情報交換の場を持って行けば、会は盛り上がり行き新しい企画や提案が出るようになり、会の活性化につながるものと考えます。
- ⑤ 会員同士の連携強化です。会員間の情報交換などを通じて会員間で仲間意識が出来、会も活性化して行くものと考えます。
- ⑥ 連絡網の充実です。会員の中にはCPD案内等の連絡が届いていない方が考えられますので、このような方は各地区事務局への連絡をお願いします。お互い情報交換ができ、顔見知るになることが先ずは重要です。又、会・支部・各地区HPの閲覧をお願いします。

ところで、九州支部は、昭和40年に支部会員25名、センター会員44名で発足し44年の歴史があり12代に亘る支部長と会員各位の努力により、現在は会員1,000名強の会に発展しています。

諸先輩の会に対する情熱を引き継ぎ、九州の技術士が一体となって社会に認められる技術士、そして入会して良かったと言われるような「魅力ある技術士会」になりたいものです。

このためには、支部や各地区の役員の努力のみでは不可能であり、会員一人一人が活動に積極的に参加していただくことをお願いするものです。

種々と記しましたが、これらの実践によって技術士自身や支部としての、会員益・会益・公益(社会的な役割)が促進されていくものと考えます。

フォロー（“follow”）

小出 剛
（農業・福岡）



去る2月14日、「G7」後の、我が日本財務相らの記者会見で、度肝を抜かれたのは、勿論私だけではなかった。ただ不思議に感じたのは、財務相の隣合せの日銀総裁、反対側席の財務省高官の平生の顔での対応と、質問マスコミ側の誰からも「異常なご様子ですが、体調不良では・・・？」の心配のひと言も発せられなかったことである。

時を経ずして、財務相を非難する国内外からの報道の洪水が現実のものとなった。

「G7」前後の財務相ご一行の行動の真実を知る術も無いが、ご本人の体調管理が頗る不十分であったことは想像に難くない。ご本人の責任は重大と言えよう。しかしお付武官として同行した多数の財務省随行者の中で、『殿！そのご体調では記者会見は無理です！延期（又は日銀総裁だけ）にしましょう！』

『大臣個人の問題でなく、日本の一大事になりますよ！』と言って会見場行きを抱き留めるお付が1人も居なかったとは、信じがたい。

ここで、「フォローする」の意味を辞典などによると——「足りないところや仕損じたところを後から補うこと」「ゴールポストに当たったボールをフォローして再び押し込む」また、類似語として「助ける」等とあるが、要は「困った事態から脱出させる役割」とも云えよう。随行者の中で、誰一人として「フォロー」を心得ていなかったことは、残念至極。

さて、20年度の九州支部での主な事業を振り返ると、平成20年11月14～15日の「第14回西日本技術士研究・業績発表年次大会（於：鹿児島）」と平成21年2月20日「第28回地域産官学と技術士合同セミナー（於：福岡）」が本部の代行行事として開催された。

前者は近畿、中・四国、九州の3支部から「①ふるさとの産物と観光」「②産業、歴史・文化遺産と観光」に関するテーマで『地域における国際競争力の高い魅力ある観光地の形成』等を目的として、各地域の観光目玉の研究論文等を持ち寄り、有意義な討論の場となった。後者は「①わが国の新産業・新技術への取組み」「②日本の技術者教育の現状と課題」「③社会資本整備の役割と地域振興対策」「④農業農村の現状・課題と地域活性化」の4項目についてのパネルディスカッションを行った。どちらも多忙な技術士仲間の大きな協力による手作り、外部からの産官学それぞれの斯界の権威者のご協力で予定どおり終えることができた。この二つを事業評価すると、どちらも技術士会として、一定の成果は得られたと思う。しかし、これまでの経緯を系列的にみたとき、所謂P→D→C→Aのサイクルが完璧に廻った上で実施されたかについての自信は持てるだろうか。その一つは、参加者が常連各位で大半を占め、新しい会員や会員外の技術者参加が少ない事である。P→D→C→Aの各パートでのフォローが十分であったか、行事の質向上やその必要性のPR、参加し易い雰囲気づくり、お互いがボランティアとしての楽しいフォローを更に強化し合う事の要を痛感する。「言うは易く、行は難し」と言うが、この二つの開催については、事業委員会を中心に、CPD委員会の支援もあり、P→D→C→Aについては関係者による特に入念な作業で進められた事を考えるとき、温かい理解・協力・支援のおもいが結集した強力な「フォロー」で、技術士会が更に新たな力を得て、次の躍進への一助になることを期待したい。

理事会報告

(平成20年度第5回H21.1.22)

(社)日本技術士会理事 是永 逸生
(機械・総合技術監理・北九州)



H21年初めの理事会であり、来期の活動指針及び3月開催の臨時総会に付議する事業計画・収支予算と理事会の懸案事項の取り纏め状況等が討議された。主な項目を以下に記す。

1) H21年度事業計画・予算計画の推進方針

H21年度は真に公益法人にふさわしい事業実施体制を整備し、「行動する日本技術士会」として、総力をあげて取り組むこととする。重点的推進事業として、昨年までの ①情報発信の強化 ②技術士の活用促進 ③社会貢献活動に加えて ④国際活動の強化を掲げる。

重点事業として、倫理や人材育成、資質向上、技術士制度の見直し、国際協力や社会貢献等を推進する計画である。詳細は議案書の事業計画を参照していただきたい。

2) 公益社団法人認定申請に伴う定款変更

公益法人認定を目指して、H20年11月に本会の目的・基本事項(第2条、第3条)を改定したが、現在次の段階として、本会の活動にとって重要な他の事項の検討を進めている。すなわち

(1)総会定足数の緩和(2)支部・地域組織の設置(3)事業計画・収支予算の承認(4)会員種別(5)モデル定款の

検討を行っており、臨時総会省略や地方組織の設立等が具体化している。

3) プロジェクトチームに関わる規則変更

プロジェクトチームの名称を「会員による活動グループの登録制度」と変更し、登録グループ名は「社団法人日本技術士会登録□□□□□□□□」と称することが出来る。構成員は10名以上、登録グループは独自に技術士業務を受託が可能となる。

4) 技術士業務報酬の手引きの変更が検討されている。「新手引き」「参考資料」活用を奨める。

5) H21年度役員選挙の実施要領が見直され選挙の準備が整った。スケジュールは以下の通り

①立候補者による推薦依頼活動開始日 4月1日 ②立候補開始日 4月1日 ③選挙運動開始日 4月22日 ④開票日 5月29日

6) H21年度の技術士試験日程は下記の通り

第二次試験：4/1：申込書配布、4/17：申込書受付開始、8/1：総合筆記、8/2：一般筆記、10/下：筆記合格発表、11/9：体験論文締切、12/4：口頭試験開始

第一次試験：6/1：申込書配布、6/16：申込書受付開始、10/12(月)筆記試験

政策委員会報告

定款変更(案)の検討状況

政策委員 山口 一弘
(建設・福岡)



現政策委員会(2007年～2009年)は、前期政策委員会(2005年7月～2007年5月)の下記四つの検討事項を引き継ぎ、これまで検討を加え、ほぼ最終段階を迎えています。前回の報告で1、2、について説明しましたが、今回はその後の経過のうち、「公益認定申請」に欠かせない新定款の作成状況を報告します。

- 1、会の目的・基本事業
- 2、代議員制度
- 3、地域組織
- 4、定款等諸規定

定款は内閣府からモデル定款が提示されており、これに沿って各法人が独自の定款を作成するわけですが、既に理事会で承認を得ている、2条(目的)、3条(事業)のほか、大きく現行定款と異なる点を説明します。変更(案)(決議)20条 総会の決議は、総正会員の3分の1以上の正会員が出席し、出席した当該正会員の議決権の過半数をもって行う。(現行1/2)

(組織) 5条、3本会は、本会の全国的な事業実施及び会員の地域的な活動の活性化に対応するため、理事会の決議により、支部その他の地域を設けること

ができる。(支部 以外に県単位の組織づくりが可能)

(事業計画および収支予算) 38条 本会の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。(現行は総会の議決を要する)

以上ですが、現在当初予定より若干スケジュールが遅れています。

今後、上記の大きく変わった点を含め、3月12日の理事会へ定款全体像をはかり、5月7日理事会で最終案を提示し、6月25日の定時総会で承認を得る予定になっています。

また、現行の7常設委員会体制は、1978年10月以来、一部変更はあったものの31年間に亘って継続され現在にいたっており、今回の定款の変更と相まって、新しく検討を加えつつあります。

海外業務促進実行委員会の活動報告（２）



海外業務促進実行委員会 九州委員 宮田 守次
(金属・北九州)

前号で、平成20年の海外業務促進実行委員会（以下本実行委員会という）の活動について報告したが、ここではその後の状況について報告（２）する。なお本委員会の目的は前号で述べているので省略する。

1. 主な活動内容

平成20年度は平成19年に引き続き、国際的な技術業務を志向している技術士の皆さんを対象に、国際協力エンジニアとしての活動を支援すべく活動してきた。

特に中国関連の海外業務促進を重点的に活動してきた。

1) 特に将来を見据えて、杉山篤 本委員長が精力的に中国側とコンタクトしてきた。まずは主要都市に出張して、省・市の外国専門家局関係者、省・市政府関係者及び大学とのコンタクトを推進してきた。教官や学生たちに日本の技術士制度及び活動、更には工場の生産技術、生産管理技術、環境や省エネルギー技術など、現在の中国の大学にはない技術指導という実践的な側面での内容も説明

してきた。

2) このような地道な活動が実を結んで、最近では、技術士を大学教授に迎えたいという大学も多数でてきて、日本の技術士の知名度も向上し、日本技術士会に派遣依頼等の照会もきている。

3) 本年度も海外技術業務実践講習会も実施したが、好評で、アンケートでは参加技術士の、海外技術指導業務を希望割合が94%と非常に高く、技術士の海外志向の高さが伺われた。

4) 平成21年度は、中国以外の、東南アジア諸国も対象に技術士業務を拡大するために、本委員会内に検討グループを設けて、現在その推進方法について検討している。

2. 平成21年度の九州地域での海外業務活動強化のために、福岡市内の在日海外領事館や事務所への積極的な広報宣伝活動のための旅費も本委員会の予算に計上することにした。

九州地域技術士の皆さんの積極的な海外技術業務活動を期待しています。

（社）日本技術士会 九州支部支部長選挙告示について

平成21年 4 月 1 日

選挙管理委員会 委員長 大橋 義美

（社）日本技術士会九州支部長の任期満了に伴い、来る平成21年 5 月16日の支部総会「第 5 号議案 支部長選挙について」において選挙が行われます。

つきましては、「社団法人 日本技術士会九州支部 支部長選挙要領」の第12、13条により下記のとおり、支部長候補推薦の届出、受付を行います。

記

1. 候補者の届出（第12条）

候補者推薦人は、5人以上でもって所定の支部長候補推薦届（様式－1）を作成し、総会開催の10日前まで事務局に提出するものとする。

2. 候補者受付（第13条）

委員会は、候補者推薦の届出があったときは、当該候補者および候補者推薦人が会員であるこ

とを、会員名簿により確認し受付けるものとする。

3. 支部長候補推薦届受付期間

平成21年 4 月20日より平成21年 5 月 6 日（木）
（郵送の場合は消印有効）

4. 支部長候補者推薦届の様式

届出用紙【様式－1】に基づき作成して下さい。用紙は支部事務局に準備しています。

5. 支部長候補者推薦届の届先

支部長候補者推薦届は、九州支部事務局へ届出して下さい。

郵便での届出も受付けます。

5. 支部長候補者の告示について

第13条により受付けた立候補者が2名以上で、選挙を行う場合は支部のHPに掲載し告示します。

業務開発委員長報告

業務開発委員長 是永 逸生
(機械、総合技術監理・北九州)

業務開発委員会は九州支部の主要な専門委員会として、技術士の皆さんの

本来の業務の開発や支援、情報の提供を行っています。

前号にも記しましたが、一昨年の技術士法制定50周年記念を契機に、技術士の活動指針を「技術士よ外に出よ」としてまとめ、国や自治体と緊密な連携の下に、新しい施策や予算化、産官学の協働体制などを積極的に進めています。

具体的には、九州経済産業局や中小企業基盤整備機構、中小企業振興センター、商工会議所等の組織との直接の働きかけや交流が活発になっています。特に技術士会の動きが多方面に広がり、活発になっていることが官公庁の方々にも浸透しつつあり、技術士会への具体的な呼びかけが増えています。

自動車関連を始め、エネルギーや環境分野で新しい課題や動きが多く、技術士の産業界へ浸透した技術力が産業の活性化に不可欠です。又、分野別では農商工連携を始め、地域力活性化拠点づくりや新連携による人材募集の情報が増えています。

技術士会では、現在組織の若返りや積極的な情報収集や提供を進めています。

特に業務開発委員会では、経産局や中小企業支援センター、商工会議所から中小企業への支援依頼や知財経営に関する新業務、技術士資格による業務等が徐々に増加しています。

しかし、残念ながらこれらの情報が技術士会員に行き渡っていない、又は関心を持つまでに至っていない状態が多いように感じられます。

今後、業務開発委員会も、実際に業務を遂行することを望んでいる会員各位に、直接企画面を含めた活動に参画していただく方向に進みたいと考えています。

自らが積極的な働きかけを行って、業務を遂行する仲間になっていただきたいと思います。

新しい動きとして、今回の公益法人改革による技術士の定款改正で、技術士業務を九州支部内の地域で自らが推進することが可能になりました。

是非とも、我々の手で積極的、自主的な技術士活動を進めていきたいと念じています。

平成20年度第4回CPD研鑽会の報告

CPD委員 石村 知子
(農業、総合技術監理・福岡)



平成21年1月24日(土)、降雪のなか、福岡商工会議所で第4回CPD研鑽会が開催され、80名もの受講者が、熱心に聴講しました。今回は、以下の4テーマについて講演が行われました。

1. 技術者論理について

講師：松藤泰典氏（北九州大学副学長）

技術者の行動原理は、技術のトレードオフとしてのリスク管理と共存しています。この講演では、リスク管理の規範的整理、技術者の行動原則、論理的責任の価値判断について、判りやすく説明いただきました。

2. ナノテクで解明食品偽造

講師：後藤雅宏氏（九州大学大学院工学研究員教授）

現在、食品偽造等の問題により食に対する不安から、食品表示の信頼性が求められています。そこでDNAの塩基配列の違いによる単純で、高価な装置を必要としない食品偽装防止技術を詳細に紹介されました。身近

でタイムリーな話題であり、大変興味深い内容でした。

3. 九州圏広域地方計画について

講師：田中泰幸氏（九地整 九州圏広域地方計画推進室総括副室長）

本講師は、国土形成計画の紹介と、九州圏広域地方計画の中間整理に基づいた概要の解説でした。新たな九州像に向けた戦略目標を具体的に解説いただき、将来の九州像に向けて、技術者として何が出来るかを考えさせられる講演でした。

4. 出会いから生まれたスロービジネス物語

講師：中村隆市氏（㈱ウインドファーム代表取締役）

本講演は、中村氏の人との出会いから生まれた人生観と、その人生観を実践するスロービジネスの紹介でした。物質的な結果を求めがちな「技術」の世界に、一石を投げられたようなインパクトある講演でした。

部会報告

第四部会

施設見学会報告

第四部会長 小宮 信行
(上下水道・福岡)



施設見学会は、平成20年12月9日に、株式会社福岡クリーンエナジーの東部工場に行きました。株式会社福岡クリーンエナジーは、福岡市の廃棄物焼却施設である福岡市東部工場の老朽化による新工場の建設に当たり、廃棄物の処理の効率化、資源及びエネルギーの有効活用等を図るため、同工場の建設及び運営、廃棄物の処理、これにより生じる電気及び熱の供給等の事業を行うことを目的として、福岡市と九州電力株式会社の出資により設立された株式会社です。



東部工場の全景

1) 設備概要等

焼却炉 全連続燃焼ストーカ式
処理能力：300t/24h (1炉) × 3炉
ボイラ 水管単胴立形自然循環式廃熱ボイラ
蒸発量：59t/h (1炉) × 3炉
発電機 横置突極回転界磁形3相交流同期発電機
定格出力：29,200kw
総事業費：約350億円



2) 環境保全協定値

排ガス	法規制値	協定値
ばいじん	40mg/m ³ N以下	20
塩化水素	約430ppm以下	30
硫黄酸化物	約1000ppm以下	30
窒素酸化物	250ppm以下	100
ダイオキシン類	0,1ng-TNO/m ³ N以下	0,1

3) 東部工場の特徴

発電効率は、国内施設でトップクラスの20,05% (電力会社の火力発電所は約40%、福岡市内の他のごみ発電は、15～16%)
ダイオキシン低減対策として、加熱脱塩化装置。省エネルギーのため、自然換気、自然採光を採用しています。



中央制御室の見学

地域との調和のため外観アースカラーを採用。

4) 運転実績

区分	ごみ受入量 (t)	ごみ焼却量 (t)	発電電力量 MWh	売電電力量 MWh
H17年度 (8～)	130,613 (95%)	129,893 (94%)	76,720 (107%)	49,668 (108%)
H18年度	205,820 (98%)	204,350 (98%)	117,823 (98%)	75,592 (100%)
H19年度	200,985 (97%)	202,294 (98%)	119,325 (100%)	77,424 (101%)

5) おわりに

操業開始が、平成17年8月1日と施設も新しく職員の方からも親切に説明していただきました。栗林さん、浦さんに紙面を借りてお礼申し上げます。当日は天気にも恵まれ、楽しい見学会になりました。天神での反省会も盛り上がりしました。

第五部会

現 地 研 修 会

第五部会長 吉木 久人
(農業・福岡)



平成20年12月16日(火)、「有明海沿岸地域における農業・農村整備」をテーマに、佐賀県鹿島市・白石町において、現地研修会を開催した。

食の安心・安全へ関心が高まる中で、各地ではより良きものを生産するために、生産基盤の整備や農村環境の整備が進められている。地域により地形条件等により事業種も異なることから、筑後川中流地域、下流地域に続いて、今回は有明海沿岸地域を対象とした。研修項目、キーワード、講演者・研修先は下記の通りである。参加者は24名。

- (1)「干潟におけるアサリ生息の安定化及び増加手法に関する考察」(アサリの生態、有明海の環境変化、浮遊幼生の死滅、耕起・覆砂) 会員 和田修二
- (2)「低平地の排水対策について」(海岸保全施設整備事業、七浦地区、鹿島市、ミオの確保、フラッシュ対策工法) 佐賀県鹿島農林事務所
- (3)「広域農道の橋梁上部工工事について」(広域営農

団地農道整備事業、多良岳地区、鹿島市、キャンチレバー工法) 佐賀県鹿島農林事務所

- (4)「農業集落排水汚泥のコンポスト化の取り組みについて」(農業集落排水事業、住ノ江地区、白石町、資源循環施設、コンポスト化肥料)

佐賀県土地改良事業団体連合会・白石町

- (5)「さかの農村資源マップについて」(農村活性化、農村資源活用、資源マップ、縫の池、歌垣公園)

佐賀県武雄農林事務所・白石町

多くの研修項目を設定したために、第1講はバスの中での講演となり、祐徳稲荷での昼食も忙しいものとなったが、現地では多くの質問が出るなど熱心な研修が行われた。第4・5講では、技術士でもある白石町の片淵弘晃町長も参加され、補足説明をされる等のハプニングもあった。最後は出発地の久留米市で交流会を開催し今後の研修会等について語り合った。

第七部会

活 動 報 告

第七部会 吉村 継彦
(建設・福岡)



九州支部第7部会では、現在2ヶ月に1回の定例会、年1回の公開講演会を実施しております。平成20年度は、昨年度に引き続き、[九州の産業遺産・技術遺産Ⅱ]をテーマとして、講演および見学会を実施しました。さらに、修習技術者を対象とし二次試験対策研修会、小学生を対象とした新幹線トンネルの見学会を企画し実施致しました。

トンネル見学会では、昨今理科離れが進んでいるとの報道があり、我々“ものづくり”に携わっている技術者として、この状況を危惧しておりましたが、見学会の募集を、一般新聞に掲載したところ、定員をはるかに超える応募を頂き、お断りの連絡をしたほどでした。また、見学会では、完成間近のトンネルの中を歩き、スケールの大きさを実感して頂いたのではないかと考えております。

北九州の見学会では、北九州地区の技術士会の方々と、日本の鐵づくりを支えた“八幡製鉄所”の関連

施設(河内ダム、河内送水路、南河内橋など)の現存する近代土木遺産を見学し、大正～昭和時代の先輩たちが残したすばらしい遺産を、目の当たりにして、何か大きなエネルギーを感じました。

このように、我々第7部会では、先輩たちが築き上げてきた“ものづくり”のすばらしさ、“もの”が完成したときの充実感を、今後も伝えていく役割を担っていくべきだと思う。

次年度は、“次世代エネルギー”をテーマに掲げ、さらなる技術士の知名度アップ、人脈の拡大と軽いフットワークで、幅広く活動していきたいと考えています。

最後に、第7部会とは、自称45歳以下の技術士(技術士補、修習技術者)で構成されており、定例会では、技術部門は異なりますが、同世代での楽しい会話や懇親会があり、私も毎回参加しております。

みなさんも是非一度、定例会へ!!

地域だより

福岡

NPO法人 西日本建設技術ネットの紹介 と建設技術セミナー開催のご案内

特定非営利活動法人 西日本建設技術ネット
代表理事 齋藤 雄三
(建設)



特定非営利活動法人(NPO)西日本建設技術ネット(略称;NICEネット)は、経験豊富な建設専門技術者(技術士等)を中心に、活力ある明るく住み良い成熟社会を構築することを目的として、平成20年11月17日に法人登記し設立しました。豊富な経験を持つ技術士等により、公共インフラの技術的、社会的、構造的な課題について、解決・改善を図ることをめざすものです。

また、NPO活動の大きな柱として建設技術の伝承と人材育成のため、さらに建設系技術者の継続的な研鑽に資するため、以下のような建設技術セミナーを隔月で開催しています。(平成20年3月～21年2月まで6回開催、うち第4回10月開催は現場見学会)

建設技術セミナーは、建設関連の各専門分野に共通のテーマ(防災・安全・品質・コスト・性能・メ

ンテナンス・環境・情報・広報など)に関して、基調講演や説明、見学の後、参加者で質疑応答、意見交換を行い、継続研鑽(CPD)として参加者の知識と親睦を深めることを目的・趣意としています。第3回(平成20年8月24日開催)以降は(社)土木学会からCPD認定を受けています。これからの開催予定は以下のとおりです。

第7回 平成21年4月25日

(土木学会CPD登録 申請予定)

「廃棄物地盤工学研究の展開(仮題)」

講師:島岡 隆行氏(九州大学大学院 教授)

第8回 平成21年6月(土木学会CPD登録 申請予定)

「気象災害の防災に向けたわかりやすい気象解説(仮題)」

講師:松嶋 憲昭 氏

((社)日本技術士会九州支部 防災委員会委員)

セミナーは若手技術者にも参加しやすいように、会場費など費用負担を小さくするためボランティアセンターなど公共の施設を利用して、土曜日または日曜日に開催しています。

以下、NPOのホームページにご案内していますので、セミナーと併せてNPOへの参加もご案内申し上げます。

URL:NPO法人 西日本建設技術ネット

北九州

北九州地区 総会兼忘年会の報告

幹事 寺師 政廣
(上下水道)



北九州地区技術士会では、年末の月例技術研修会の折に総会及び忘年会を開催しています。総会は、通常、地元で開催しておりますが、各地区技術士会との懇親を目的に、平成15年度に熊本、16年度に佐賀で実施、今回は4年ぶりに、大分県別府市で開催する運びとなりました。

12月20日に開催された総会は、北九州27名、大分10名、福岡3名、佐賀1名の合計41名の参加で、昨年度と同様、盛会で有意義なものとなりました。

午後1時から別府市田の湯町「つるみ荘」で研修会を開催しました。大分県技術士会から、宮崎辰彦氏(建設・総監)による「プレハブセル工法における情報化施工について」、藤澤孝氏(農業)による

「田染の庄と昭和の町(大分県豊後高田市)」、大分県技術士会会長・冷川久敏氏(水産・総監)による「魚のはなし」について、講演していただきました。

北九州地区技術士会から、佐倉克彦氏(化学)による「誘電泳動インピーダンス計測法を用いた小型細菌数迅速測定装置の開発」の講演、小出剛氏(農業)による「小学生理科教育支援」の報告を行いました。

次に、松原代表幹事による北九州地区技術士会の年間報告を行う予定でしたが、活発な討議により、時間が足らず、次の忘年懇親会に持ち込みました。

忘年懇親会は、会場を別府亀の井ホテルに移し、古賀豊吉前九州支部事務局長講話を拝聴した後、月例技術研修会の皆勤賞6名、精勤賞4名、特別精勤賞3名(大分地区・佐賀地区の遠路からの参加者で出席率の良い方)の表彰式を行い、最後は泊氏を中心に「坊がつる讃歌」を全員で熱唱しました。二次会会場は代表幹事の部屋となりましたが、二時まで大騒ぎ、隣室から苦情が……。

翌日は、紹介された「田染の庄」へ行きましたが、生憎の雨でゆっくり観光ができず、次回に期待……。大分県技術士会の皆様、本当に有難うございました。

佐 賀

アサザの保存活動 と地域貢献

藤永 正弘
(建 設)



主に佐賀地区技術士で構成する「NPO法人技術交流フォーラム」では環境部会の活動として、所属会員が行う、環境と地域貢献活動を支援しています。

これまで「40年ぶりに復活した湧水を活用した縫の池」「巨大な平地ダム巨勢川調整池」などを鍵とした地域住民の地域づくりは成果をあげ、地域環境改善と地域コミュニティ活動の進展に寄与してきました。

最近の活動としては、佐賀県神崎市で展開されている「千代田のアサザ保存会」の支援を行っています。

佐賀県のごく一部の河川に生息する「アサザ」は、近年、河川改修工事の進展に伴い減少しつつあり、危機を感じた生息地の住民有志で平成18年6月に「アサザ保存会」を結成したものです。

活動趣旨は「このアサザや水辺の植物の生育環境

保全を図り、貴重な植物を守っていくとともに、地域の子供の環境学習として活用し、地域住民の環境意識向上、アサザを基調とした水辺とまちづくりへの参画等、川を活かした地域づくりに資する事を目的」としております。

これまで、広報活動の一環として平成19年と平成20年は行政や諸NPO、民間企業、地元有志で実行委員会を結成し、「カヤックにのってアサザを観察しよう」のイベントを市教育委員会、地域の小学生を中心に中池江川で実施し大変好評を得、新聞や市の広報誌に掲載され、「アサザ」という植物の名前も徐々に知れ渡ってきました。

一方で、平成20年は神崎市において「まちづくり支援助成金」を受け、市内の「アサザ」や「オグラコウホネ」など水辺の貴重な植物の分布調査、水槽による「アサザ」の生態観測を実施中です。



※アサザとは……浮葉植物（準絶滅危惧種）で、佐賀県では主に中池江川の一部に自生。花は黄色で5月～10月に咲く。葉は円形、ハート型。

長 崎

長崎地区活動概要

地区広報委員 桐原 敏
(建 設)



長崎県技術士会では近年、「熟練技術士」の活躍が目立ち、久保田英士先生が平成19年に「ダイオキシン類の生成抑制に関する研究」で、また本年3月には長崎県技術士会会長の犬束洋志先生が「長崎県の離島架橋の整備における技術的対応と投資効果に関する研究」で工学博士を取得されました。

これまでも技術士会のリーダーとして活躍されてこられた先生方で、その姿勢・業績に敬服するとともに是非その姿勢を受け継いでいきたいものです。

長崎県技術士会での最近の取り組みについて報告します。

1. 会員情報の整備

長崎県技術士会の課題は技術士会活動の活性化にあり、役員一同、あれこれ知恵を出し合っているところですが、年2回程度の研修会、年4回の機関紙発行のほか、主に九州圏内・近県エリアでの研修会・研究発表会への参加等が主たる行事で、必ずしも十分なものとはいえません。

近年は個人情報保護等の問題もあり、会員情報も次第に把握が難しく、会員相互の連絡や外部からのご相談に対しても迅速かつ適切な情報提供・発信が出来ないことも懸念され、現在会員各位に技術者情報の提供をお願いして、「会員技術情報誌」的なものを発行すべく現在作業を進めており、来年度早々には何とか発行したいと考えています。

2. 会員数の増強

現在、長崎県内在住の技術士は150名程度と想定されますが、当会に加入されておられる方は100名程度です。しかし、会費納入や技術士会活動への参加・出席状況等は芳しいものではありません。

特効薬はありませんが、会員の増強、会活動の活性化を目指して粘り強くがんばります。

I

伝 伝

田ノ上春雄

(農業、総合技術監理・鹿児島)



私は昨年3月、37年間奉職した地方自治体を退職した。退職の2ヶ月程前、入庁の昭和46年に私が描いた設計図が保管されていることがわかりそのコピーを送ってもらった。拙い設計図だったが、37年前描いた図面が今でも残っていることに感動した。たまたま、維持管理のためにマイクロフィルム化して保存されていたからだ。当時は、計画、測量、設計を一貫して職員自らが行っていた。上司は新入生に早く仕事を覚えさせ、実戦部隊に繰り入れることに熱心だった。生活の隙から仕事まで、怒られながら手取り足取りして教えられた思い出がよみがえった。自分の仕事が世の中に役立っていたということと、先輩方の指導のありがたさがわかった最初で最後の出来事だった。

退職時の業務は、公共事業の品質確保、安全管理、検査等であった。設計・現場のミスや失敗・事故が繰り返し報告され、その度に注意喚起の通知文を出した。報告を受けるにつけ、再発防止の特効薬は無いか悩むところであった。その一つに、リタイアする私たち団塊世代の技術者が経験や知識を後輩へ引き継ぎ伝えることも大いに効果的であると考えていた。偶然、退職の数ヶ月位前、私の意を得るかの様に退職者が後輩へ残す、伝えたいことを綴った文集「伝伝」の編集が企画された。私は公共工事の危機管理、業務遂行上の留意点等をまとめて投稿した。その一部を「声の広場」に紹介する。

●切り口は温暖化対策

IPCCの報告書は、地球温暖化の進行は暫くは社会システムに関係なく進行するとしている。温暖化は単に気温の上昇だけでなく大気中の水蒸気が増え降水の対流性が増してより集中的になる。その結果、豪雨が頻発する一方で弱い降水は減り、台風や干ば

つの頻度が高まり、両極端の現象が現れやすくなると予測されている。

今こそ、我々技術者の出番！である。気象の発生頻度、規模の傾向を先読みして緩和策、適応策さらには貢献策を設計に活かしていく技術的柔軟性が求められている。

例えば、計画時の確率対応1/10の施設が、現在では1/20でないともたないとする。我々はこれにどのように対処するのか。

今後、災害リスクは上がると予想される中、適応策として降雨強度の見直し、確率年の引き上げが考えられる。しかし、確率等の基準改定や、耐用年数未満での新たな改修は、妥当な投資という観点から困難である。温暖化を予想した確率値の改訂はすぐにできないとすると、その間の対処方として、今の基準で最大限に適応させることである。

このような状況で上流を整備したことで到達時間の短縮により下流域に水害が発生しないような計画はどうしたらよいか。

一つの例として、下流で崩壊し易い土質の崖、橋梁、暗渠、集落等の懸案地点では地点毎の実洪水到達時間内の降雨強度で断面を算定して余裕を見込むことである。また、流速は許容最大流速以内とすることは勿論、それ以上の場合は水制や減勢工・落差工等を設置して流速低減を図る。仮に流速が半減するとエネルギーは1/4となり、災害防止効果が上がるのである。

一方、既設の排水路が容量を越える場合は既存ため池や余剰地等に調整機能を付加しピーク流出カットを検討する必要がある。また、高流速水路の場合は、既設水路に抵抗物（水制）を設置して粗度を高める方法も考えられる。水路の中に水制を設置する場合は、洪水時に流速と水位を観測して粗度を評価し、対策の試行錯誤（見直し）を繰り返すことで実用される。モニタリングは理論と現場の橋渡しである。現場をよく見れば発見あり、出会いあり、仕事も楽しい。無味乾燥な予算消化の場と考えない。

「万町の田を耕すも その業は

一畝ずつの功にあり」 尊徳

Ⅱ

分業化が進んだ 今日に思うこと

兼子 健男
(農業・熊本)



今日仕事において、大変分業化が進み、便利な時代になった。以前であれば、一人で行っていた作業も数業者で行う時代になっている。

この時代の変化は問題ありと思う者は私一人ではないと思うが。

仕事において昔からプロの人たちは仕事の効率性を求めてきた。私の専門は農業である。老練な農家の作業を観察してみると、いろいろなことが見えてくる。

草刈りにおいて、現在は動力を利用した刈払機の利用であるが、昔は鎌での作業であった。この作業を思い出せば、作業時に腕を軽く振り回すことで、サクサクと草を刈り取っておられたものであった。腕には力を入れてない作業であるので、疲れは少ないし、連続作業を続けることができる。このことが可能とするためには、鎌の刃が研がれていなければならない。

一方素人の草刈りはどうであったろうか、購入時には大変切れる状態であるが、使っている内に、刃がにぶくなり、切れなくなってくる。それでも、研ぐ時間が惜しいのか、研ぐ技術がないのか、切れないまま使ってしまうことがほとんどである。その結果、腕の力はいるし、疲れも多い。

老練の農家の作業時間（刃を研ぐ時間＋草刈り時間）と素人の作業時間は変わらないかもしれない。しかし、内容は違う。作業に力がいらぬことは、無理なく作業ができることであり、連続作業が可能である。作業に力があることは、作業するにつれて、作業の率が悪くなり、全体作業量が落ちてくる。

老練な農家が刈り取った棚田の水田の畦畔などはすばらしい絵にも感じる。

このような作業は親子代々に渡って、伝承されてきたわけである。その結果、仕事の熟練度が増し、継承されてきた。特に段取りと言う準備作業の能力

は、熟練することで高めてきた技術であると思う。

これらの連続した継承は、特に職人としての職業に多く見受けられ、技術の質を美学的な意識の範囲まで到達したと感ずることもあった。

ところで、現在の技術職、特に設計業務においてコンピュータの利用されるまで、先輩が行った技術計算等を見よう見まねで行い、詳しい内容に至って、専門書を参考にしながら、設計を行い、技術力を高めてきた。

今は各自が利用できるパソコン利用の変化してしまった。パソコン導入当初は、各自で作ったソフトの利用であったが、いまでは、パッケージ化されたソフトの利用に至っている。その結果仕事が大変便利となった。インプットできれば、答えのアウトプットが簡単となった。

ここで、問題なのが技術的基礎の中身も知らずに、データをインプットすれば、即座にアウトプットされ、仕事が一人前と思われる時代になった。

自分で作成したソフトであれば、基礎的な内容を理解した上であるのが、そのソフトの適用範囲を理解しながら作業すれば、間違いがないのであるが。

私の経験したことであるが、コンクリート二次製品に關した技術計算で、コンクリートの剪断力を考慮すれば簡単に問題解決できる内容であるが、無理した設計内容を行っていた。計算を担当した者に確認したとこと、適当なソフトを見つけることに苦労したとの返事であった。

この程度の計算であれば、表計算ソフトで手軽に作成できるはずと思っていたが、ソフトを探すことで計算を行う体質になっているのかと驚いた。

技術者の空洞化が始まっているのかとも思ったしだいである。

仕事が各分野に渡って、分業化した結果である現在、元に戻ることはできなくなっているが、仕事全体の流れを俯瞰的に把握し、原点の考えをあてはめながら対応することが大切でないかと思ふ次第である。

特に、分業化した仕事をまとめるに当たって、各専門分野の縦糸とした場合、これらの分野をつなぎ合わせていく横糸の能力が必要であり、各分野の能力を融合して $1 + 1 = 2$ 以上の結果に導く能力こそ技術士に必要な能力でないかと思ふ。

技術士の活性化と発展の可能性

～会員増強のための課題と社会的要請へのアプローチ～

齋藤 清美

(博士(工学)、衛生工学・福岡)



1. はじめに

近年、不景気の時代に入り、産業界の低迷と公共事業の落ち込み等で技術士への業務依頼が低減しており、コンサルタント業の競争が激化する一方で入札価格低下を招くなど厳しい社会背景と現実があります。そこで、九州支部においても、日本版グリーンニューディール等への取り組みを実現する会員への活躍に大きな期待が高まっており、技術士による産官学の強い連携と技術開発支援関係を強化する必要があります。不景気の今の時代こそ、新しい活力ある産業社会システムを築き上げるチャンスでもあると考えております。かようなことから、技術士会の発展に向けた具体策を会員諸氏と一緒に考えてもらうために、これまで大学、九州グリーン購入ネットワーク及び技術士会南九州地区等でとりまとめた技術士会への期待や要望、そして課題を紹介しながら、技術士会の活性化と会員技術士へのサービスとモチベーションを向上させられるよう今後の方策の一助としてご提案させていただきました。

2. 技術士、技術士会への期待と要望・政策

九州支部における会員からの期待と要望及び一般企業、学生、消費者等から見た政策上の期待には大きく次のようなものが挙げられます。

- ①技術士会と弁護士会及び公認会計士会との連携支援構築による業務拡大化②審議会・各種行政機関の委員、学識経験者への会の推薦、斡旋③JABEE審査員の育成と大学内非常勤講師紹介と斡旋
- ④労働安全衛生コンサルタント業務参入及び消費生活コンサルタント増員化⑤各県中小企業センタ商工会議所への技術相談コーナー要望設置による社会浸透化と専門家派遣登録事業の広域化戦略

3. 九州支部の検討課題と提案

九州支部における過去と現在の継続的な課題には大きく次の3つのテーマが挙げられます。

- (1) CPDの従来テーマを九州支部全体は共通大テーマに統一、各地区の地域テーマと重複しないよう各地区との運営費協働事業化、九州域内リレー方式としてテキスト出版化、CD・DVD出版事業化で

受講者へのサービス、在宅学習、見識の向上に効果的でありさらに要検討。

- (2) 若い50歳代以下の技術士の参加が旧態依然少なく、メリット、協働事業も少ないので次の魅力的な会へ向けた要改革検討①若い技術士の発表研鑽、機会等を付与、要技術論文賞付与の余地。②大半の役員・委員長の人選が60歳代に固定化、今後は40-50歳代に柔軟にシフト化して若い技術士の人生目標機会の付与、会の要活性化促進策が切望される。③九州支部は、技術士の社会貢献を戦略的に実現するために入会者、独立開業希望者への後方支援のための技術コンサルタント教習委員会(仮称)を設置して、地域産業創出支援型、新技術開発指導事例型、JABEE審査員、知的所有権型等の実務コンサルタント実践家養成と実務を習得の機会を与える実務型人材を社会に浸透させる事を九州支部の新たな使命と目標に位置づけする。
- (3) 原則として支部長、本部理事は、選挙により建設系、産業系より選出し、1期2年交代制として平等に活躍できるようにする。一方、支部会員、各地区会員には広く役員、委員長、委員の自薦、推薦を求めて会員の人生機会と支部の発展と活性化策を図る、また会員は全て技術士の登録下では平等であり、委員長、委員が長期に固定しないように広く参加を求めて新鮮化しそれまでの先輩経験者は議事等を助言して円滑に運営するものとする。さらに70歳代以上の先輩諸氏の貴重なご意見、助言は引き続き検討していくものとし、会のイベント活動になるべく参加していただき現役の40-50歳代以下の現役会員の助言、指導を通して入会支援活動や各地区、九州支部の発展の資するものとする。

4. おわりに

我が国の政策である科学技術基本法、新経済成長戦略、21世紀環境立国国家戦略等の国策の基、産業技術振興の革新的技術開発が九州支部会員の健闘によって日本のさきがけとなりますように健闘を祈ります。

「温故知新」と木材利用研究会

“里山と低平地の連携による県産木材の有効利用をめざして”

福岡 仁
(建設・佐賀)



1. はじめに

木材利用研究会は、佐賀県、佐賀大学、(財)佐賀県土木建築技術協会、(社)佐賀県県土づくりコンサルティング協会の技術者から構成される産・官・学の研究組織である。

研究の対象となる佐賀の低平地には、高鋭敏性・高圧縮性を有する厚さ10m～30mの粘性土地盤が堆積している。この地盤に対し、古くは吉野ヶ里時代から近年にかけて木杭を活用する歴史が築かれ、佐賀城の基礎をはじめとする様々な遺構から木杭基礎の有効性が実証されている。しかし、近年では木杭基礎の設計に対する明確な技術マニュアルがないことなどから、コンクリート杭や鋼管杭が主流を占めるようになってきている。

当研究会では、軟弱地盤における木杭基礎工法を中心に各種設計施工マニュアルの検討や現場実証試験を実施し、県産木材の利用促進にむけた検討を行っている。

よって本稿では、佐賀県の木材利用研究会と活動内容について、いくつか紹介したい。

2. 木材利用研究会の目的

当研究会の目的は下記のとおりである。

- ①木杭基礎を用いた伝統技術の復権と継承
- ②地域特性を生かした技術によるコスト縮減
- ③CO₂排出低減による環境への配慮
- ④間伐材の有効利用による森林保全と防災
- ⑤県産材の有効利用による森林産業の振興
- ⑥佐賀県の風土に適した低平地と里山の連携

3. 木材利用研究会の活動内容

当研究会は、これまでに水路用ボックスカルバートやプレキャストL型擁壁の木杭底盤系基礎設計マニュアルの作成や各マニュアルに関する現場実証試験を行ってきた。現在では、4つの分科会に分かれてワーキングを行い活動している。以下に、各分科会の活動内容を示す。

- ①第1分科会「プレキャストL型擁壁に背面補強材を用いた木杭底盤系基礎の研究」
- ②第2分科会「水路用ボックスカルバートの木杭底盤系基礎設計マニュアル第2版作成」
- ③第3分科会「プレキャストL型擁壁(木杭底盤系基礎)の現場実証試験の実施」
- ④第4分科会「木材を活用した伝統工法の継承を図

るための調査」

4. 現場実証試験の紹介

当研究会の現場実証試験では、試験の立案から実施及びデータの分析を行うことにより、木杭の各種設計マニュアルの補完および拡充を図っている。以下に、実証試験の実績を一部紹介する。

①施工後約45年の樋門基礎の木杭調査



写真－1
鉛直載荷試験状況

<試験内容>

場所：佐賀県南部白石町地内（3連函渠）

試験：鉛直載荷試験（1カ所）

既設木杭（引抜後）材料強度試験（3本）

地盤：N=0シルト層（約14m）

既設木杭：末口φ180、元口φ300 杭長L=8.0m

②木杭－底盤系基礎上に設けたL型擁壁の

土圧・底面荷重の計測



写真－2
現場実証試験状況

<試験内容>

場所：佐賀県佐賀市巨勢町地内

試験：木杭（末口φ180mm、長さ4.0m）12本

プレキャストL型擁壁（H=2.0m）3基

（普通盛土・補強盛土2タイプ）

10tダンプトラック走行（活荷重）

観測：杭頭荷重6点、壁面土圧6点、

補強材応力ひずみ24点、沈下・傾斜

地盤：粘土層及び砂混じり粘土層（6.0m～7.0m）

5. まとめ

このような実証試験の実績を数多く重ねることにより、木杭基礎の有効性が確立でき当研究会の目的を果たすことができると期待している。

孔子の説いた論語の中に「子曰。温故而知新。可以爲師矣。」のくだりがある。先人の築いた技術を研究し、現代の科学技術により解明していくことこそ理想的な技術の継承ではないかと考える。

技術士活動を振り返って

宮崎 辰彦

(建設、総合技術監理・大分)



1. はじめに

私が第2次技術士試験に合格したのは、平成7年2月の初旬です。それから早いもので14年が経過しました。平成7年といえば1月17日の阪神淡路大震災や3月の初旬には地下鉄サリン事件等年当初より世相の暗い事件が相次ぎ自分自身の合格に浮かっている時ではないこと痛感したのを憶えています。当時私は大阪に住んでおり、阪神淡路大震災の時の住居付近（大阪府吹田市）の震度は「4～5」だった記憶があります。

阪神淡路大震災後の震災状況の対応として、関西地質業協会の「阪神淡路大震災調査委員会」の一員として伊丹市を中心にその周辺の状況調査を行い1年間活動しました。その後家庭の事情により、郷里である佐伯市にUターンし、現職に就いています。私の技術士としての活動は主に大分に帰郷してからであり、技術士会に入会してからについて述べます。

2. 帰郷してからの活動（その1）

大分に帰郷して、早速大分県技術士会（当時は日本技術士会大分県協会でした）に入会しました。44才の時でした。メンバーは故川野宏平会長以下30名弱の小世帯であり、年少組の一人でした。

その当時の大分県協会の事業内容は年2～3回の会合、新聞広告の掲載、技術士試験の説明会等であり、活動らしきものはほとんどありませんでした。ご存じのように未だ「技術士」は知名度が低くこのような事業内容では大分県においても認知度が広がらないと危惧していました。大阪にいた頃、特に技術士となった1年間でも2～3回講師として研修会に参加していましたので、大分においても何かしら研修会の場がないものかと考えていました。ただ一度「技術士試験説明会の体験発表」をしたのを憶えています。その後、大きな活動もなく過ごしていましたが、ただその後技術士資格の必要性は高まりつつあり、県の職員の方やコンサルに勤めの方等受験

者は増加傾向になりました。

3. 帰郷してからの活動（その2）

大分県技術士会が本格的に活動を仕始めたのはCPD教育の広がりによるものです。RCCM、土木施工管理技士など資格の更新毎にCPD単位の取得が義務づけられ、大分県のように研修会等が極端に少なく、単位取得に際し地域的なハンディーが大きいことが背景にあります。

CPDの義務化に伴い、大分県技術士会と大分県測量設計協会（技術士会会員も多数）との間で何とかできないものかとの議論がなされ、平成18年に両者間でCPDに関わる委員会が設立されました。私も当初から技術士会の委員として参加し、記念すべき第1回の研修会には講師として1時間の講習を行いました。現在CPD代表幹事として、年3回の研修会の実施に携わっているところです。

もちろん、その他の活動も同時に実施しており、入会当時とは比べものにならない程技術士会としてのイベントは多くなっています。

4. おわりに

CPDそのものは、自己研鑽の一手段であり、資格更新の手段としてのものではありません、本研修会では技術士及びRCCMの方以外にも門戸を広げて参加を募っており、できるだけ多くの技術者の参加や、更に発表の場として会の狙いもあります。

CPDスタッフとしては、講師の選定など運営面での課題は多くありますが、更に会を充実させ、継続していくことが大事と考えています。

原稿募集

新しく「熟年技術士の声」「若手技術士の声」「女性技術士の声」「私のチャレンジ」コーナーを設けております。会員の皆様の声をお寄せください。詳細については、九州支部事務局へお問合せ下さい。

南のトトロに魅せられて ～新しい価値観との出会い～



井上 康志

(建設、総合技術監理・宮崎)

1 トトロのまち

かの旭化成陸上部の本拠地、延岡市。その南に大きな入り江に囲まれた漁港のまち・土々呂（トトロ）はある。「まち」といっても、まちらしき形態はない。地域は南北に走るJR日豊本線と、この両側に寄り添う国道10号と県道によって分断されており、どちらかといえば、ボトルネックによる“交通渋滞のまち”のイメージが強い。いや、そう思っていた。

トトロというまちとの出会いは、いわば突然訪れた。延岡に赴任したばかりの私は、平成20年4月、ある料理屋へ向かっていた。歓迎を兼ねて集まったのは木材関係者数名。日向や延岡で県産スギを使った様々な取組みを通じて知り合った仲間たちだ。その中に、ひとり知らない顔があった。聞けば、土々呂で木工所を営んでいるという。まちづくりに話しが及ぶと、ポツリポツリと話し始めた。「最近、土々呂の古い民家が次々となくなっていく。寂しい」と。そして続ける。「自分はそうした民家を借りて、手直しをしている。この地域をなんとかしたい。」そう、熱く語った。これは見に行かない手はない。早速、その週末、土々呂へ向かった。

2 小さな駅、小さなまち、そして・・・

買ったばかりのロードバイクを担いで、土々呂駅に降りた。ほんとうにちっぽけな無人の駅だった。駅前にはガランとして人気はない。自転車を組み立て、すぐ近くの木工所へ向かう。出迎えてくれたご主人が、改装中という民家へ案内してくれる。数歩も歩かないうちに足が止まった。「エッ！何これ！」。幅が2mにも満たない、しかも曲がりくねった道。両側には庭先かとも思えるような民家が立ち並ぶ。その先に古民家はあった。入り口の木戸には鍵がない。代わりに紐のついた五寸釘が目立たないように差し込んであるだけだ。中に入る。暗い。ひんやりとしている。しかし明かりがつくと、そこには生活の息遣いが聞こえそうな古い柱や梁、そして昔ながらの土間があった。当初は、足を踏み入れることもできないほど痛んでいたそう。この地域の地形が、そ

してこの空間が記憶を宿しているように思った。

3 地域との価値の共有

次の集まりでは、それぞれが地域のキーマンに声をかけた。仕事も立場もまちまちだ。土々呂からは木工所のご夫妻。地元の大学からは考古学が専門の先生。行政や建築士も加わったその席で、土々呂を話題にしてみた。全員が乗ってきた。早速、下調べをして、9月に第一回目のまち歩きを実施した。地域の宝を探し、その地域の人に語ってもらう。ある宮大工は古い地図を前に、1時間以上もその当時の話を聞かせてくれた。祭りもあった。こんなに小さな子供がいたのかというほど、家族連れでにぎわった。地域の歴史や伝統はこうして若い世代へ引き継がれていく。

撮り貯めた写真は1000枚を越えた。その展示会を先の古民家で企画してみた。平成21年1月の1週間で200名を超える来場者が、この土々呂のまちを堪能した。ある風景の写真を見て父親の話を涙ぐみながら語ってくれた老婆がいた。そうして、地域の人たちが懐かしそうに写真を取り囲む。みんな顔が輝いていた。

4 とまらない仕組み・・・「サステナブル」とは

地域が輝きだすきっかけは、その地域に眠っている。輝きは失わないはずなのに、いつしか見る側が忘れてしまっている。そのことに気づき、働きかける手順が必要だ。それは①その土地が持つ良きもの、優れたものを知ることから始まる。②そして、土地や空間がもつ固有の履歴を紐解き、人々の記憶をたどりながら記録にとどめていく。③それには専門家の意見も必要だろう。学術的な知見も欠かせない。④そして、地域の大切なものとして代々語り継がれていく。

メンバーはすでに次のまち歩きを実施した。アーケードの片隅にあった、昔の鍛冶屋の竈（かまど）に火が入った。槌音が響く。赤い炎は一緒に歩いた市民の心に、しっかりと焼きついたことだろう。

さて、次は・・・

修習技術者の声

入札制度の改革と資格取得について

東 浩一
(建設・鹿児島)



現在、プロポーザル方式や総合評価落札方式など、一定の資格・成績等を入札参加条件としています。

これらの入札方式の改革は、公共投資の削減が続けられている現状で、不適格業者の参入によるダンピング受注や、成果品の品質低下を防止するために必要なことであると思っています。

しかし、技術提案の評価は、価格のように誰が見ても同じ順位になるというわけではないため、評価点の根拠や評価体制を、明確にする必要があります。

また、技術提案書作成のための労力が多大になりすぎると、技術開発や他業務への影響も発生します。さらに、資格条件を満たす技術者が少ない場合には、その人に集中し、毎日技術提案書作りに追われるようになりかねません。

これを解決するためには、技術者全員が有資格者となり、自分の仕事は自分で受注してくるような気

持ちになる必要があると考えています。

私は、現在、建設コンサルタントに勤務して、14年になります。4年前に技術士一次試験に合格し、翌年から技術士二次試験にチャレンジしています。

毎年、“今年こそは”という気持ちで努力していますが、なかなか結果に結びつきません。

しかし、技術士二次試験の勉強を始めてから、“技術力”に対する考え方が変わりました。

建設コンサルタントが求められている技術力は、有益な施設を高品質、低価格で提供できることだと考えています。

技術士の資格取得は、そのスタートラインに立つための免許証のようなものだと思います。

自分もそのスタートラインに早く立ち、さらに技術力を高め、公益確保のため社会に貢献していきたいと考えています。

会員ニュース

☆(社)日本技術士会(九州支部)入会

〈平成20年11月〉

(所在地)	(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡	正会員	上村 俊英	建設	建設技術研究所九州支社水 総合技術 工部
熊本	準会員	徳山 雄一	建設	大進コンサルタント 技術部
福岡	準会員	藤田 一郎	衛生工学	九電工福岡支店空調管技術 部

〈平成20年12月〉

(所在地)	(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡	正会員	木藤 賢一	建設	建設技術研究所九州支社 総合技術
福岡	正会員	府内 洋一	建設	富士ビー・エス技術製造本 部事業開発グループ
福岡	正会員	松下 雅之	建設	バンフィックコンサルタンツ 中国支社第一技術部
福岡	正会員	猿渡 幸二	上下水道	建設技術研究所九州支社水 工部

〈平成21年1月〉

(所在地)	(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡	正会員	大浦 克徳	建設	建設技術研究所九州支社情 総合技術 報室

福岡	正会員	寺地 守	建設	道路保全技術センター九州 支部
福岡	正会員	松下 俊樹	建設	建設技術研究所九州支社水 総合技術 工部
福岡	正会員	森川 真一	上下水道	北九州市水道局
福岡	正会員	岩永 宏平	衛生工学	日本環境衛生センター西日 本支局環境工学部
福岡	正会員	磯貝 尚弘	森林	国土防災技術熊本支店
大分	準会員	符 剣	機械	興人佐伯工場生産部
長崎	準会員	堀江 正宏	電気電子	三菱重工業長崎造船所長 崎プラント建設部
福岡	準会員	下田 正寛	化学	安倍国際特許事務所技術
福岡	準会員	浦杉 裕	資源工学	鹿島建物総合管理九州国立 博物館管理事務所
福岡	準会員	石崎 正通	建設	福岡県柳川土木事務所
長崎	準会員	大坪 雅人	建設	マリタイム・プランニング
福岡	準会員	水田 実	建設	麻生工科大学専門学校教 務部
福岡	準会員	光森 徳雄	建設	工スケイエンジニアリング
鹿児島	準会員	尾辻 清香	上下水道	日本総合設備鹿児島南部事 業所
福岡	準会員	黒川 淳一	経営工学	日本政策金融公庫中小企業事 業本部
佐賀	準会員	浜崎雄一郎	環境	ミゾタ環境技術研究所
大分	準会員	松田 敦	環境	内山緑地建設九州支店工 務部

協 賛 会 員

……………[福 岡]……………	㈱富士ピーエス九州支店	協同エンジニアリング㈱
㈱アイ・エヌ・エー九州支店	富洋設計㈱九州支社	ダイエーコンサルタント㈱
いであ㈱九州支店	平和測量設計㈱	大洋測量設計㈱
㈱エスケイエンジニアリング	㈱松本組	東洋測量設計㈱
㈱カミナガ	㈱唯設計事務所	西日本コンサルタント㈱
㈱九州地質コンサルタント	……………[北九州]……………	㈱日建コンサルタント
九州環境技術研究所	環境テクノス㈱	日進コンサルタント㈱
㈱建設環境研究所福岡支店	㈱九州設計事務所	松本技術コンサルタント㈱
㈱構造技術センター福岡支社	九和設計㈱	……………[宮 崎]……………
㈱サンコンサル	㈱酒見設計	㈱アップス
新地研工業㈱	㈱太平設計	九州工営㈱
第一設計㈱	㈱都市開発コンサルタント	㈱弓場水コンサルタント
第一復建㈱	㈱松尾設計	㈱ケイディエム
㈱大建	……………[佐 賀]……………	㈱国土開発コンサルタント
大成ジオテック㈱	㈱九州構造設計	正栄技術コンサルタント㈱
㈱ダイヤコンサルタント九州支店	新栄地研㈱	㈱白浜測量設計
㈱タイヨー設計	西日本総合コンサルタント㈱	㈱親協
大和コンサル㈱	日本建設技術㈱	南興測量設計㈱
㈱高崎総合コンサルタント	……………[長 崎]……………	㈱西田技術開発コンサルタント
中央開発㈱九州支社	扇精光㈱	㈱東九州コンサルタント
㈱東京建設コンサルタント九州支店	㈱実光測量設計	㈱福島測量設計調査事務所
東邦地下工機㈱	㈱新栄設計事務所	南日本総合コンサルタント㈱
西鉄シーイーコンサルタント㈱	大栄開発㈱	㈱都城技建コンサルタント
西日本技術開発㈱	大洋技研㈱	㈱宮崎産業開発
西日本コントラクト㈱	西日本菱重興産㈱	㈱ロードリバーコンサルタント
日鉄鉱山コンサルタント㈱九州支店	……………[熊 本]……………	……………[鹿児島]……………
日本工営㈱福岡支店	アジアプランニング㈱	朝日開発コンサルタンツ㈱
日本総合コンサルタント㈱九州支店	㈱九州開発エンジニアリング	コーアツ工業㈱
日本地研㈱	……………[大 分]……………	中央テクノ㈱
㈱橋梁コンサルタント 福岡支社	九建設計㈱	㈱久永コンサルタント
㈱福山コンサルタント	九州特殊土木㈱	

九州支部平成21年度 第1回CPDのご案内

1. 日時 平成21年4月25日(土) 10:00~17:00
2. 場所 福岡商工会議所ビル 302号
(〒812-8505 福岡市博多区博多駅前2-9-28
TEL: 092-441-1110)
3. 講師及び内容(講演順不同、技術士にはCPD認定6単位 当日CPD参加票授与)
 - 1) 森田昌嗣氏
(九州大学芸術工学研究院、教授)
【演題: パブリックデザインの方法—都市環境の秩序化と個性化のために】A-4
 - 2) 岡田秀俊氏(㈱ゼロテクノ代表取締役)
【演題: コンクリート構造物の品質確保・向上を目指して】A-4

- 3) 境 公雄氏
(福岡県大木町環境課資源循環係、係長)
【演題: バイオマスタウンの実証報告】(仮題)
A-6
 - 4) 手嶋準一氏
(財)日本気象協会九州支社、気象予報士・農博)
【演題: 福岡の温暖化 今、何が起きているのか?】A-2
- 参加費(資料代): 1人3,000円(当日徴収。なお、昼食・飲料等は各自負担をお願いします。)
4. 参加申込先: (社)日本技術士会 九州支部
TEL: 092-432-4441 FAX: 092-432-4443
参加ご希望の方は、下記のいずれかの方法にてお申し込み下さい。①を推奨します。
①支部ホームページ「CPD案内」
<http://www.pekyushu.com>
②所要事項をご記入の上、九州支部宛FAXにて送信

会誌“技術士”最近の主要目次

[PE] 技術士1・2009

- ・年頭挨拶／高橋 修
- ・職人にみる技術者倫理／鈴木竜司
- ・ビデオゲーム表示技術の進化と今後／三部幸治
- ・安全・安心次代における免責問題／黒澤豊樹
- ・航空機技術の動向と国産機開発／西脇英彦
- ・BSE(牛海綿状脳症)における飼料の周辺／木村信熙
- ・第28回地域産官学と技術士との合同セミナー／吉岡茂喜

[PE] 技術士2・2009

- ・防災雑感／大森雅夫
- ・企業内教育における技術者倫理研修手法に関する提言／河相雅史
- ・水環境におけるITの動向／筒井和雄
- ・食品に関する信頼確立のための制度と技術／藤岡豊陽
- ・地球温暖化防止に向けた土木技術者の役割／石井弓夫
- ・理科支援員等配置事業に参加して／坂井美穂

[PE] 技術士3・2009

- ・時代を超える技術チャレンジの時代／若井やすひこ
- ・アフリカでの経験を通して考えた現代日本の倫理問題の解決方法／田中 宏
- ・自動車の走行を支える道路交通情報利用の現状／東谷 上
- ・ISO25030「ソフトウェア品質要求定義」制定の意義／江崎和博
- ・遺伝子組換え食品の安全性評価と品質表示基準／丹生谷博
- ・電力系統の現状と将来動向／横井重雄

編集後記

平成21年度がスタートしました。先月、新しい技術士も誕生し、より多くの入会とともに会の活性化が期待されます。

私たちを取り巻く社会環境は益々厳しさを増しており、100年に一度といわれる景気悪化により様々な社会問題が生じ、これまで営々と築いてきた信頼関係が大きく揺らごうとしています。そのような状況の中、上杉謙信や直江兼続が重んじた「義」の大切さが、今の社会へのメッセージと重なってきます。「義」とは正しい行いを守ることであり、人間の欲望を追求する「利」と対立する概念として考えられているようです。技術士会にあって、目指すところは「義」に通じるものがあるように思えます。

「技術士だより」では、会の最新情報の提供と併せて、熟年技術士、若い技術士、女性技術士など様々な「技術士」に光を当て、それぞれの方のお考えを紹介し、誠実でひたむきな姿をお伝えしています。

今後引き続きご紹介していくと共に、今年度は、支部ホームページと「技術士だより」との連携をより緊密にし、それぞれの特性を活かした情報提供に努め、「魅力ある技術士会」となるよう努めて参りたいと考えています。(棚町)

発行: (社)日本技術士会九州支部

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
(シック博多駅前ビル203)

九州支部: ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4443

E-mail: pekyushu@nifty.com

九州支部ホームページURL:

<http://homepage2.nifty.com/pekyushu/>

センター: ☎/FAX(092)432-4443

印刷: (株)川島弘文社